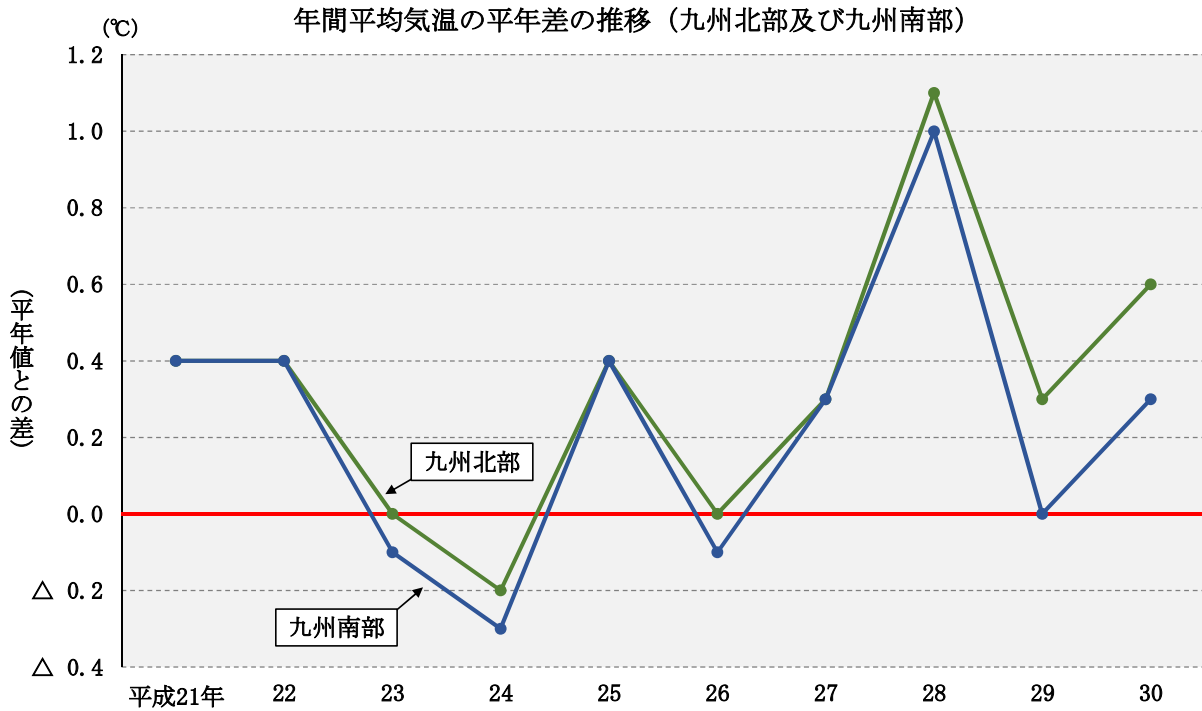


1 農業経営を取り巻く環境

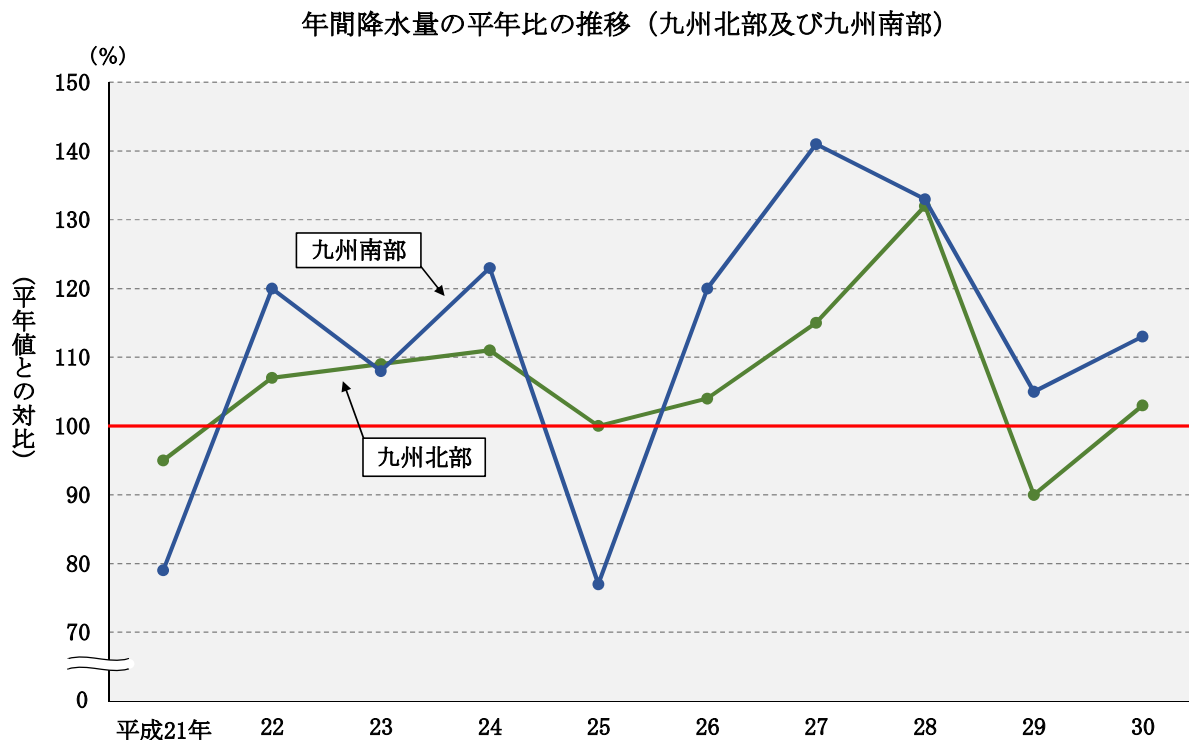
(1) 九州の気象

○九州の近年10年の年平均気温は、地球温暖化、都市化の影響、自然変動等により、平年値を上回っている年が多い。
○近年10年の年間降水量についても、平年値を上回っている年が多い。

※ 平年値は1981-2010年の30年間の観測値の平均を基に算出されたものです。
九州北部地方は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県及び山口県。九州南部地方は、宮崎県及び鹿児島県。



資料：気象庁「気象観測データ」

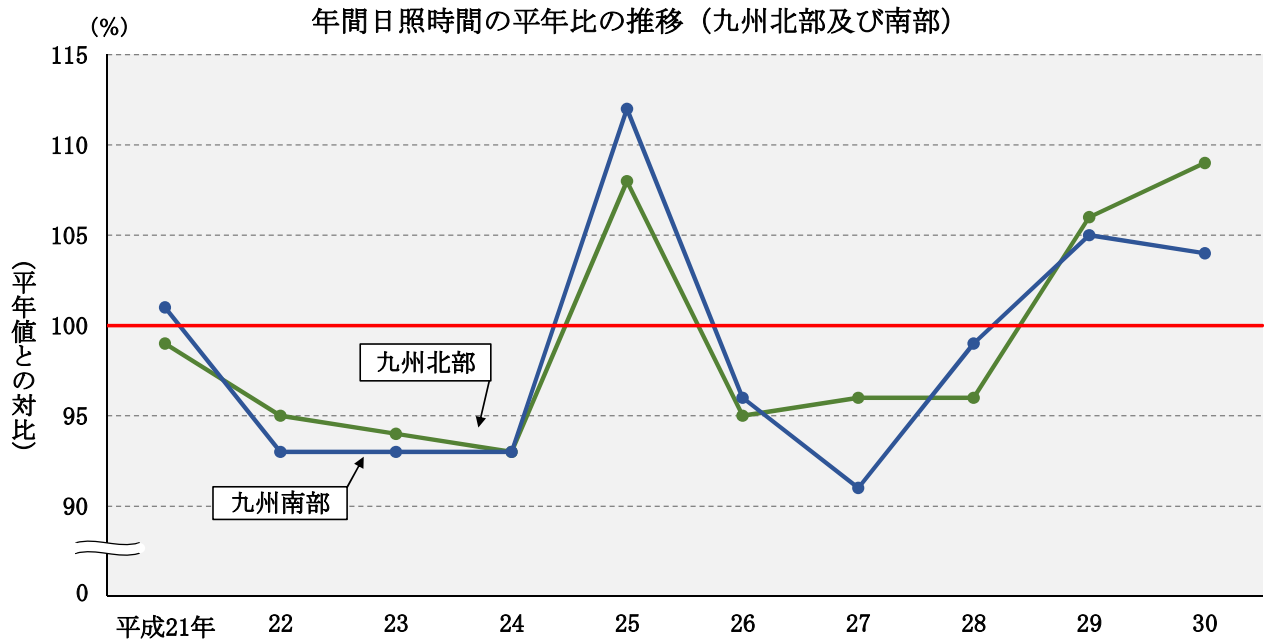


資料：気象庁「気象観測データ」

1 農業経営を取り巻く環境

(1) 九州の気象 (つづき)

- 九州の近年10年の日照時間は、平年を下回っている年が多い。
- 平成30年に九州に接近した台風の数、平成21年以降最も多い。



資料：気象庁「気象観測データ」

(九州に接近した台風数)

| | 平成21年 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|--------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 九州北部地方 | 1 | 2 | 4 | 6 | 3 | 4 | 4 | 3 | 4 | 8 |
| 九州南部地方 | 1 | 1 | 6 | 4 | 3 | 5 | 4 | 4 | 4 | 8 |

※ 「九州北部地方に接近」とは台風が山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、「九州南部地方に接近」とは宮崎県、鹿児島県の薩摩地方、大隅地方、種子島・屋久島地方のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいいます。

資料：気象庁「気象観測データ」

(梅雨入りと梅雨明け)

| | | 平成21年 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|--------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 九州北部地方 | 梅雨入り | 6/3頃 | 6/12頃 | 5/21頃 | 5/30頃 | 5/27頃 | 6/2頃 | 6/2頃 | 6/4頃 | 6/20頃 | 6/5頃 |
| | 梅雨明け | 8/4頃 | 7/17頃 | 7/8頃 | 7/23頃 | 7/8頃 | 7/20頃 | 7/29頃 | 7/18頃 | 7/13頃 | 7/9頃 |
| | 降水量平年比 (%) | 121 | 111 | 119 | 138 | 72 | 87 | 102 | 117 | 67 | 110 |
| 九州南部地方 | 梅雨入り | 6/2頃 | 6/12頃 | 5/23頃 | 5/30頃 | 5/27頃 | 6/2頃 | 6/2頃 | 5/24頃 | 6/6頃 | 6/5頃 |
| | 梅雨明け | 7/12頃 | 7/20頃 | 7/8頃 | 7/23頃 | 7/8頃 | 7/16頃 | 7/14頃 | 7/18頃 | 7/13頃 | 7/9頃 |
| | 降水量平年比 (%) | 51 | 163 | 135 | 168 | 77 | 135 | 209 | 147 | 91 | 128 |

※ 「梅雨の時期の降水量の平年比 (地域平年値)」は、全国の気象台・測候所等での観測値を用い、おおむね梅雨の期間に相当する6～7月の2か月間降水量の平年比 (%) を各地域で平均されたものです。

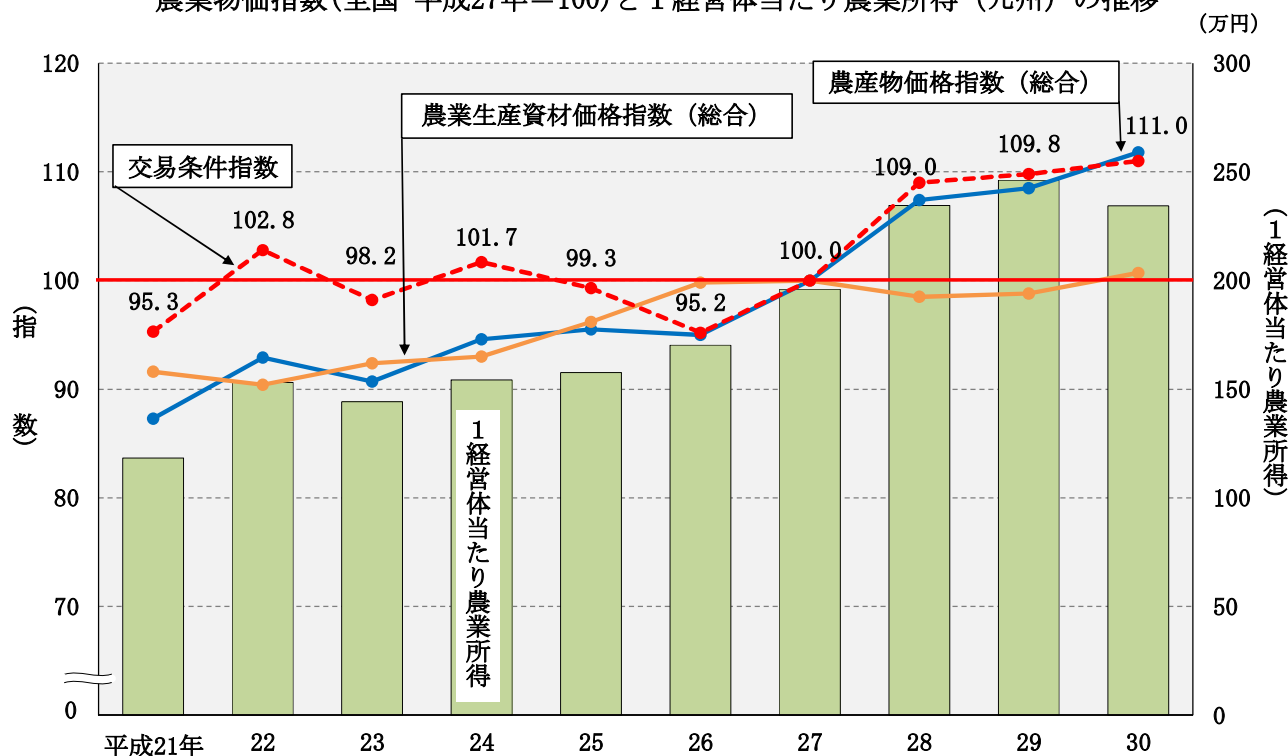
資料：気象庁「気象観測データ」

1 農業経営を取り巻く環境

(2) 農作物価指数の動向

- 農産物価格指数は平成27年以降4年連続で上昇。
- 「農業の交易条件指数」(農産物価格指数/農業生産資材価格指数×100)は、平成27年以降4年連続で上昇。
- 農業経営体の1経営体当たり農業所得は、農業の交易条件指数におおむね連動し、3年連続で上昇していたが、平成30年は前年に比べ減少。

農作物価指数(全国 平成27年=100)と1経営体当たり農業所得(九州)の推移



資料：農作物価統計、農業経営統計調査(経営形態別統計)

【解説】

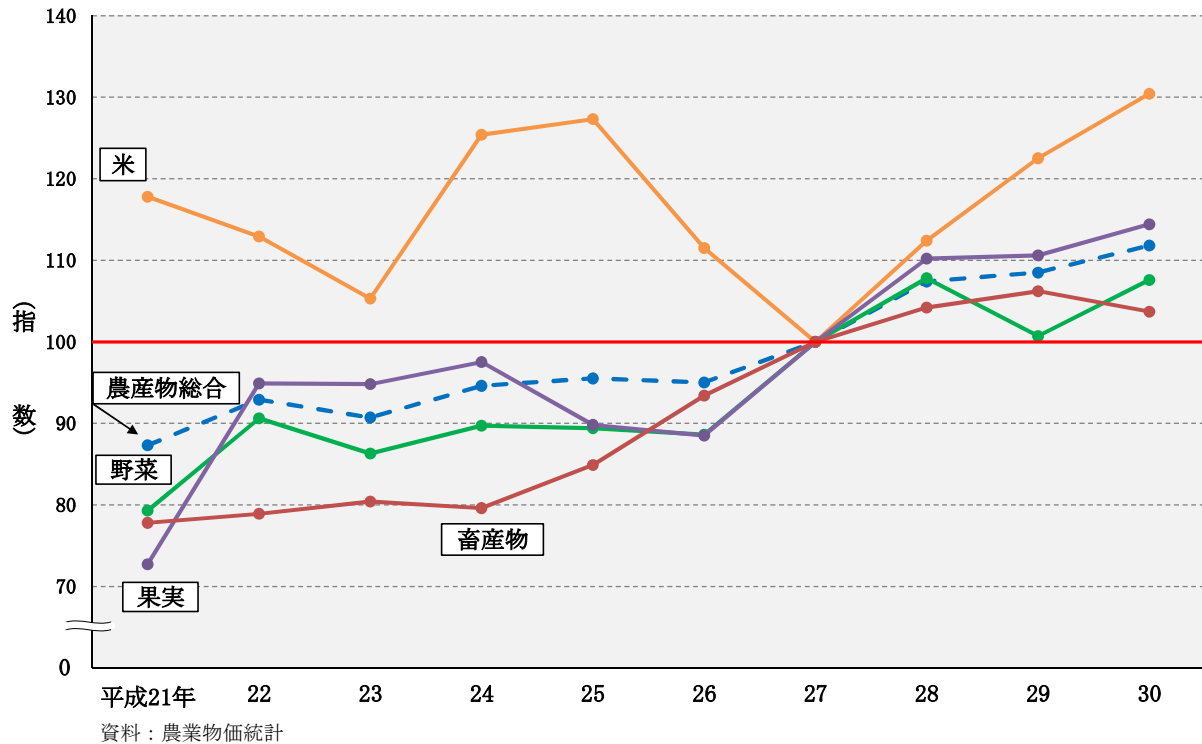
- ・農作物価指数は、農業における投入・産出の物価変動を測定するため、農業経営に直接関係ある物価を把握し、その結果を総合して指数化したもので、農産物価格指数と農業生産資材価格指数の二つがあります。
- ・「農業の交易条件指数」は、農産物価格指数(総合)を農業生産資材価格指数(総合)で除して計算されるもので、これが上昇すると経営環境が良くなっていることを示します。
- ・すなわち、「農業所得=農業粗収益(価格×生産量)-農業経営費(経費)」であることから、農業所得の動向は、農産物価格指数と農業生産資材価格指数の比である農業交易指数の動きとおおむね連動することとなります。

1 農業経営を取り巻く環境

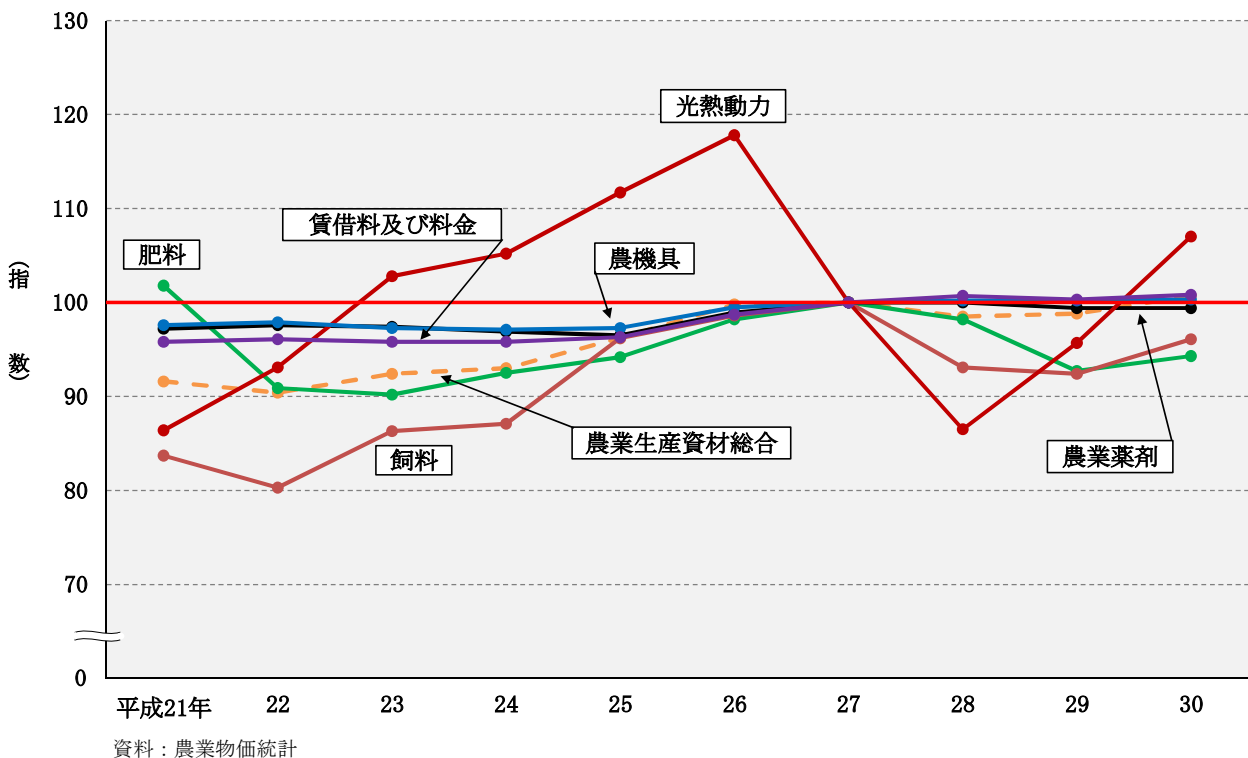
(2) 農業物価指数の動向 (つづき)

- 農産物価格指数は、畜産物は平成24年以降上昇していたが、平成30年は低下。米は平成28年から3年連続で上昇。
- 農業生産資材価格指数は、光熱動力が平成29年から原油価格高騰の影響で上昇。

農産物価格指数（全国）の推移（平成27年=100）



農業生産資材価格指数（全国）の推移（平成27年=100）



1 農業経営を取り巻く環境

(3) 市況（青果物・畜産物）

- 野菜、果実の卸売価格は、平成21年以降は上昇傾向。特にいちごは大幅に上昇。
- 食肉の枝肉価格は、平成28年までは上昇が続いたが、以降は横ばいで推移。

